



平成26年12月発行

No. 12





長坂下条里づくり研究会の開

下条里づくり研究会

会長 三井 俊文

平成十四年十一月二十三日、農村と都市を結ぶ里づくりを研究するため「長坂下条里づくりを考える集い」が開催されました。長坂下条里づくり研究会は、これをきっかけに始まりまし

た。
この会は、「田園風景を残したい。」「遊休農地が増え、荒れた農地が目立ってきている。」「農家の高齢化が顕著になってきている。」「これから集落を中心とした、自分たちが暮らす空間を作っていく必要がある。」「都会と農村の交流ができるのではないか。」などの問題意識から、農村に移り住む人と、そこで元より生活する人が共同で質の高い住環境を育て、将来にわたって優れた農村景観が維持できる里づくりを目指すことを会の目的としてきました。

具体的な活動としては、三つの活動があります。

(一) 地域の文化を勉強する。

(二) 農村住民と都市住民、移住者との交流方法を勉強する。

(三) 地域の土地利用を勉強する。

以上の活動の中で、様々なヒアリング調査や大豆づくりやキノコ作りの体験や梅の木の剪定と収穫体験などのイベントを行いました。

これまでの活動の結果や成果としては、長坂の町長への説明や区総会で区長の説明を行い下条区や長坂町への研究会の活動について理解を深めていただくことができました。また、里づくり条例の検討や本研究会の法人化への検討、定期借地の利用などで土地を手放さないで、土地を活用する方法の推進（一家族が二十年間の借地利用を実施中。）や実際の都市住民の入居を推進できました。

長坂下条里づくり研究会について、皆様にはご理解いただけましたでしょ

うか。又、機会がございましたら、お話などをしていただくと考えております。今後もし引き続きご理解とご協力をお願いいたします。



- ・ 地域資源の評価・分析
- ・ 地元の皆さんの意識を確認
- ・ 成果に対する研究会での意見交換



研究会の様子



- ・ 「ふるさと倶楽部」との交流（都会から移り住んだ人たちとの交流）



キノコづくりの様子



- ・ 下条地区の土地利用の現況確認
- ・ 住居地域の特性を確認
- ・ 住宅適性規模の確認
- ・ 借地方法の確認



土地利用の状況

「ハケ岳ふるさと倶楽部」を

むつむつく

「ハケ岳ふるさと倶楽部」

佐藤 彰啓

「ハケ岳ふるさと倶楽部」は、都会からハケ岳の麓に移り住んだ人々の会です。このたび、「日野春學舎」の活用団体に入れさせていただき、ハケ岳名水会さまのご尽力に感謝いたしております。この學舎が地域のあらゆる人々(老若・男女、健常者・障害者、地元民・新住民、いずれ問わず)にとつて、「こんなところがあって、よかったな」と思えるような拠点になることを願ってやみません。

私たちと日野春の地との出会いは、十五年前の「日野春下条地区里づくり研究会」の皆様との出会いからでした。小正月の左義長祭や味噌づくりに参加させていただいたりして、この地に縁もゆかりもなかった私たちにはとても

いい経験でした。今回の日野春小学校の廃校が決まった時、いち早く「研究会」の皆様が、新たな活用によつて地域の発展が図られるよう市に働きかけ、ハケ岳名水会により「日野春學舎」が誕生しました。ここでは、ハケ岳名水会「のはら楽団」も設立されて、わくわくする楽しいことが始まるとのこと。私たちの倶楽部の活動も、名水会や地域の人々とともに、さらに羽を広げてこの地に根ざしていければと期待が膨らみます。ハケ岳ふるさと倶楽部は、二千年に発足して、現在会員は三百三十余世帯。リタイア後の人もいれば、まだ週末暮らしの人もあります。都会では、食品添加物や輸入農産物の残留農薬など食の不安は高まるばかり



り。ここでは新鮮な地元野菜を味わい、自家菜園で農的な生活ができることが嬉しい。これまで、公務員、会社勤め、研究者、学校教師、病院や社会福祉関係など、さまざまな仕事に携わってきた方々で、こちらに移り住んでも何らかの社会的な役に立ちたいとボランティア活動に参加されている人も多い。そういう人々のゆるやかなネットワークがこの倶楽部なのです。

倶楽部の運営委員会は十世帯。行事は、総会、ハイキング、料理講習、コース、援農活動など。最大のイベントは、秋の文化祭です。皆さん多種多芸で素晴らしい作品展が開催されます。「日野春學舎」の体育館で、文化祭を開催し地域の人々にも見ていただき、また二階の理科室がみんなのたまり場として気楽の活用できるようになったことは、ほんとうに嬉しいことです。これから、皆様との連携を図って活動していきたいと思っています。よろしく願います。



11月9日(日)
「汐見穂幸先生講演会」
不登校の子供たちの居場所 ひなたぼっこ



10月11日(土)
「ハケ岳ふるさと倶楽部まつり」
ハケ岳ふるさと倶楽部



10月31日(金)
「森のオカリナ樹・音 コンサート」
犬塚勉のまなざし 犬塚勉美術館

日野春學舎グラランドオー
プニングイベントが開かれ
ました！
十月三十一日(金)～十一月九日(日)



10月31日(金)～11月8日(土)
「障害者アート活動作品展 まめてん」
日野春學舎アート企画部門まめてん実行委員会



11月8日(土)
「豆腐まつり」
春の陽・のはら楽団

報告



山梨フォーラム―IN 甲府

去る十月四日に山梨県男女参画推進センター「ぴゅあ総合」で山梨フォーラムIN甲府が開催されました。

山梨で「自分らしい暮らし方【山梨における住まいの在り方】を考える」の題に基づき、虐待防止・地域移行・高齢化社会対応について講演やシンポジウムが行われました。厚生労働省虐待防止専門官曾根直樹氏、日本精神科病院協会常務理事青南病院院長千葉潜氏、山梨県知的障害者支援協会会長山西孝氏等が講演をされ、シンポジストを務められました。

名水会でも虐待防止について、法人内研修が開かれています。講演を聞いた

ていると、研修で話し合った内容がありました。その時に学んだ知識を更に深めることができました。事例もあり解りやすく、虐待が発覚した場合の対応方法なども学べることができました。地域移行については、「病院で暮らすこと。自分の部屋で暮らすこと。」のシンポジウムがありました。「目標を達成するためにも職種、機関、立場などを超えて、同じテーブルでものごとを考える必要性」という話を聞いた時に、当事者だけが地域移行に積極的に取り組むのではなく、行政・医療・福祉・地域の方の協力がとても大切だということを確認することができました。

最後は「高齢化した障害のある方の住まいの在り方について」を題にしたシンポジウムでした。知的障害のある方は家族との同居率が高く、高齢時の単身率も高いという話を聞き、高齢になる前に、何らかの形で社会資源を使うことにより、危機的な状況を防ぐことが大事だと思いました。

山梨フォーラムに参加して、今ある知識を深めることができました。今回の講演やシンポジウムでは、現在山梨で課題となっていることを詳しく解説されていて、しっかりと理解することができました。支援者の立場として学ばなくてはならないことばかりで、私の知識不足も痛感しました。フォーラムで学んだことを、これからの支援に役立てていこうと思いました。

菜の花

浅利 美衣



女 取 の 泉

知的障害者支援協会から

山梨県知的障害者支援協会（支援協会）では、山梨県にある知的障害者施設、四十五か所の代表が月に一度集まって活動を行っています。

活動内容としては、施設間での交流を目的とする交流部と、支援員の勉強を目的とする研修部とのふたつに分かれています。

去る七月四日には、交流部の企画として、利用者交流スポーツ大会が行われました。

残念ながら雨天のため、キックベースボールは中止となってしまい、楽しみにしていた利用者にとっては残念な結果となってしまいました。しかし、春の陽の利用者は代わりにグリーンヒルホームの利用者と一緒に体育館での交流会を楽しんでいました。

また、星の里の利用者は、レクリエーション大会にみんなと一緒に参加さ

れました。それぞれの利用者が、それぞれの場所で、たくさんのお会いや思い出ができたことと思います。参加してくださる方の笑顔や「楽しかった」の一言が、私たちにとって何よりの喜びです。

普段はなかなかできない他施設との利用者や職員との繋がりを通じて、日常の作業から離れて他の仲間と会話を交わしたり身体を動かしたりすることが、支の楽しさを知ってもらえることが、支援協会の役割だと思っています。

これからも、様々な利用者が楽しめるイベントを企画できるよう努力したいと思っています。何かアイデアや要望などがございましたら、気軽に意見を下さるとありがたいです。

今後も、利用者が主体となる当事者研修や、利用者交流文化祭などの企画を予定しております。その都度お知らせをいたしますので、ご協力とご参加をよろしくお願いいたします。

星の里 谷井 久悦



ペットボトルのピンを倒すボーリングです。ボールをととても上手に転がしています。

大勢の利用者さんと職員が輪になってのフォークダンスです。



お知らせ

障がい者芸術展

「山梨のたゆたう光と風」アールブリュット展」

が開かれます。(山梨アールブリュット展実行委員会主催)

開催期間

平成二十七年二月二十二日(日)～二月二十七日(金)

五日間(二十三日は休館日です。)

場所

山梨県立図書館一階イベントスペース

内容

- ・ NPO 法人「はれたりくもったり」所有・寄託作品の展示
- ・ 山梨県在住作家の作品展示
- ・ 関係者によるギャラリートーク開催

アールブリュット展は一部日本財団の助成を受けています。

※アールブリュット映像作品上映会(NPO法人はれたりくもったり主催)が二月二十二日(日)(午前十時・午後

二時・午後六時半の三回上映)が行われます。芸術展との同時開催です。上映会ではアフタートークで上映映画の監督対談なども予定されています。場所は、県立図書館多目的ホールです。(福祉医療機構助成事業)

ぜひお越しください！



「まめてん」から



ありがとうございます！

○題字を書いてくださった方

後援会員・NPO法人ライフサポー

ト相談員

芦沢 信さん

○表紙絵を描いてくださった方

星の里利用者

岩間 剛さんと

愉快的仲間たち

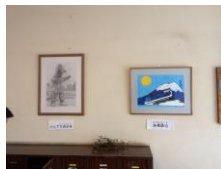
素敵な字と絵をありがとうございました！

不用品、不用品等の寄付のお願い

ハケ岳名水会では各事業所やグループホーム、日野春學舎等に様々な物品を常時必要としています。お手元で眠っている不用品・家具・家電製品・農業機械等お譲り願えればありがたいです。

問い合わせ連絡先

0551-32-0035



まめてん

法人職員募集中！

ハケ岳名水会の職員を募集しています！常勤・非常勤問わず募集していますのでどうぞ応募して下さい。

問い合わせ連絡先

0551-32-0035

編集後記

先日、同僚から紅葉（鹿肉）を分けてもらった。最近「ジビエ」と言うのだそうだが、臭いもなく、焼きそば、カレーの具材として調理した。

この地域に住んでいると一年を通じて、四季折々に、鹿肉だけでなく、りんご、柿、葡萄、桃、スイカ、サクランボ等のフルーツや白菜、大根、トマト、とうもろこし、茄子、キュウリなどの野菜を分けていただくことが多い。本当に嬉しく、ありがたい。素直に幸せな気持ちになる。「御裾分け」と手元の辞書で引くと「福分け」とあった。人に幸せを分けることは、なんと素晴らしいことだろう。

今年は、世の中にとまではいなくても、みんなに少しは「御裾分け」出来たろうか。私も貰うばかりでなく、「福分け」する方になりたいな。そんなことを思いながら、年の瀬に美味しく紅葉を味わった。

光

社会福祉法人 ハケ岳名水会

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間 1095-7

TEL 0551-32-7355 FAX 0551-32-7350

E-mail hoshinosato@coast.ocn.ne.jp

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~hosi7355/>

広報委員会スタッフ

廣瀬政光 小池翔 穂坂雄太 浅利美衣（以上菜の花）伏見祐司 相吉謙輔 横森紘子（以上星の里）中村萌々子 阿部通洋 伊藤友裕 村瀬成美（以上春の陽）清水めぐみ 中村和穂 長田美咲（以上陽だまり）望月杏沙美（ぼーら）立川瞳（相談支援）坂本むつみ 清水久美子（以上事務局）

シカ科

シカ属

ニホンシカ

